

修学旅行とサツキマス研修での挑戦

6年生は、10月27、28日に白川郷・高山への修学旅行を行いました。

コロナ禍においても、子どもたちが学校を離れて同じ時間や空間を共有できる修学旅行は貴重な機会です。宿泊研修を体験できなかった6年生には、なんとしても宿泊の体験を味わわせたいと思い、実施できる可能性が高い岐阜県内を選択しました。そして、修学旅行を通じた学びに探求する必然性をもたせるために白川郷・高山市を目的地にしました。



上：白川郷での班別研修

下：熊野市での定置網漁



2日間の活動に10のミッション（使命）を設け、子どもたちの力で克服することを課題としました。子どもたちは修学旅行スローガン「仲間と協力し、最高の修学旅行にしよう」を掲げ、課題の達成に向けて、白川郷や高山市の観光の秘密を調べたり、活動を通して仲間のよさを見つけたりしながら、ミッションの達成に取り組みました。

たった2日間ですが、子どもたちは、学級や学年の仲間と一緒に凝縮した濃密な時間を過ごし、学校ではできない学びを経験しました。一人一人が先を考えて行動し、誰も遅れることなく計画をやり遂げた班別行動では、大きく成長した6年生の姿が見られました。

また、11月16、17日には、山県市と三重県熊野市との交流事業であるサツキマス研修に参加しました。サツキマス研修とは、海を知らないアマゴが川を下り、海で大きく成長しサツキマスとなって生まれた川に帰っていく姿になぞらえ、子どもたちをたくましく育てようという試みです。漁船に乗って定置網漁を体験したり、世界遺産で知られる熊野古道を歩いたりして、熊野市との交流を深めました。一緒に参加した山県市の他校の児童と共有した時間や初めての漁業体験を通し、挑戦することの大切さや面白さを味わいました。

修学旅行とサツキマス研修で経験値をレベルアップさせた子どもたちが、これからの学校生活や委員会活動に挑戦する姿にもご期待ください。

ひびきあい活動・人権集会について

7月の「いじめについて考える日」から3ヶ月がたちました。その時に学級で考えた「大切にしたいこと」を振り返ってさらに温かな学級にするために、福祉委員会が人権集会を企画しました。

「仲間を大切にし、いじめを絶対に許さない気持ちをつくろう」をテーマに、全ての学級で仲間のよさを認め合う活動を考えました。そして仲間のがんばった姿を見つけ、そのよさを言葉で伝えることに取り組みました。人権集会では、この活動を学級ごとに動画にまとめて交流しました。交流を通して、温かい言葉かけで安心することができたり、自分のよさを認めてもらったことでうれしくなったりしたことをわかり合い、安心できる仲間の大切さをみんなで確認しました。

富岡小では「いじめをしない、させない、許さない学級・学校づくり」を「温かな学級・学校づくり」ととらえ、「温かな居場所づくり」に取り組んでいます。

創立 150 年の歩み その 3

明治30年ごろの富岡尋常小学校を紹介します。

当時の男の先生は、紋付きの黒い羽織に縞の袴（はかま）を、女の先生は紫色の袴を身につけていました。児童は、裾の短い筒袖（つつそで）に兵児（へこ）帯、肩上げの緋（かすり）や縞の半纏（はんてん）を着ていました。帽子を買ってもらえる児童はわずかでしたが、ラシャ帽をかぶっていました。履物は、ほとんどが尻切れの草履で、歯の付いた足駄を履いている子もいました。鞆は買えないので、家で縫ってもらった布の袋を肩にかけていました。雪の日には長靴はありませんから、足袋（たび）で走って登校して、帰りは素足で帰ったそうです。

昼食はお弁当です。麦飯に梅干しが普通でした。休み時間は、陣取りや鬼ごっこ、縄跳び、お手玉、あやとりをして遊びました。

（高富町史・通史編：参照）

